



イカ展

令和3年7月17日(土)～9月5日(日)



大きいイカ
小さいイカ
深海のイカ
ひかるイカ

千葉県立中央博物館 分館 海の博物館

〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123
TEL 0470-76-1133 FAX 0470-76-1821
URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/>

■ご利用案内

開館時間 午前9時～午後4時30分(入館は4時まで)

休館日 月曜日(祝日の場合はその翌日)※8月9日は開館

入場料 一般200円、高校・大学生100円
中学生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方
及びその介護者1名無料
その他団体割引等の制度があります
(お問い合わせください)

駐車場 午前8時30分～午後5時15分(入庫は4時15分まで)
普通車2時間まで200円
障害者手帳等をお持ちの方及びその介護者は無料

■交通

JR外房線 鵜原駅から徒歩約15分
勝浦駅からタクシーで約10分
勝浦駅から小湊鉄道バス「勝浦市役所～
勝浦駅～ミレーニア勝浦線」、「海中公園
・海の博物館」下車徒歩1分

自動車 圏央道・市原鶴舞ICから約1時間

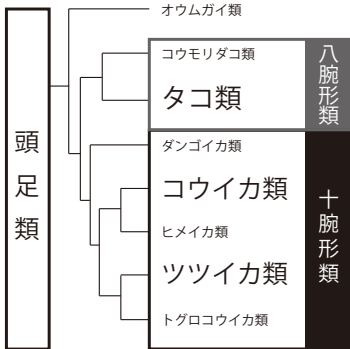


イカ展

私たちに非常に馴染み深い「イカ」。近年は漁獲量の減少が心配されていますが、日本人は一人あたり年間約1 kgのイカを食べていると言われており、私たちの食卓には欠かすことのできない食材のひとつと言えます。今回の展示では、生きものとしてのイカについて、詳しく紹介します！

イカは何のなかま？

イカは貝類と同じ軟体動物門のうち、頭足類と呼ばれるグループに分類されます。頭足類にはイカ（十腕形類）やタコ（八腕形類）が含まれ、イカの属する十腕形類は、10本の腕（正確にはは足）を持ちますが、そのうちの2本は捕食用の伸縮自在な触腕として区別されます。私たちに馴染み深い「イカ」のほとんどは、十腕形類のうちコウイカ類とツツイカ類のイカです。コウイカ類はコウイカやカミナリイカなどで、体に石灰質の「甲」を持ちます。一方、体が細長く、石灰質の甲を持たないスルメイカやアオリイカなどはツツイカ類に含まれます。



イカやタコのなかまの分類



十腕形類
コウイカ類 (ボウズコウイカ)



十腕形類
ツツイカ類 (トビイカ)



十腕形類
ヒメイカ類 (ヒメイカ)



十腕形類
トグロコウイカ類 (トグロコウイカの貝殻)

狩りの名手

イカは筋肉の塊とも言える外套膜（筒の部分）の働きによって運動性が極めて高く、外套膜の内側（外套腔）に吸い込んだ海水を頭部の漏斗から勢いよく吹き出して活発に泳ぎます。高い運動性を支えるため、イカには通常の心臓



カギイカの触腕に並ぶ鉤（かぎ）。しっかりと餌を捕らえて逃しません。

の他、1対の鰓の付け根に一つずつ、計3つの心臓があります。イカは無脊椎動物の中では

最も発達した目を持っており、触腕を使って狙いすまして餌を捉えます。捉えられた餌は口に運ばれ、鳥の嘴のような顎板（いわゆるカラストンビ）で引きちぎられます。引きちぎられた餌は、歯舌（しぜつ）と呼ばれるリボン状のヤスリでさらに細かくすりおろされて食道に送られます。

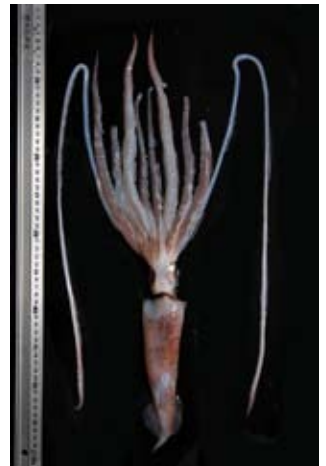


スルメイカの歯舌の走査型電子顕微鏡写真(写真の幅は約2 mm)

千葉県で見つかった珍しいイカ



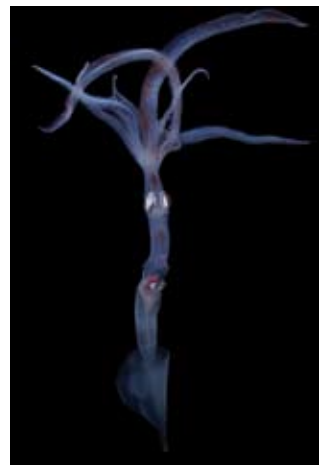
サメハダホウズキイカ
深海に住むイカで、生時は透き通った体をしています。(館山沖, 外套長約5 cm)。



ダイオウイカの子供
子供が見つかるのは稀。大人の標本とセットで展示しています。(勝浦, 外套長約20 cm)



トックリイカ
胴体の先のヒレが2枚あります。この個体は先端のヒレがなくなっています。(勝浦沖, 外套長約15 cm)



ユウレイイカ
細長い体をしています。目の周りに発光器がならんでいます。(勝浦沖, 外套長約8 cm)

関連行事

講座「イカを調べよう」

令和3年8月1日(日) 定員8名 中学生以上(要申込)
※詳細は当館行事案内にてご確認ください